

International
Opportunity

インターナショナル・オポチュニティ・ファンド(為替ヘッジなし)愛称:未来の世界(除く米国)

追加型投信／内外／株式

International Opportunity

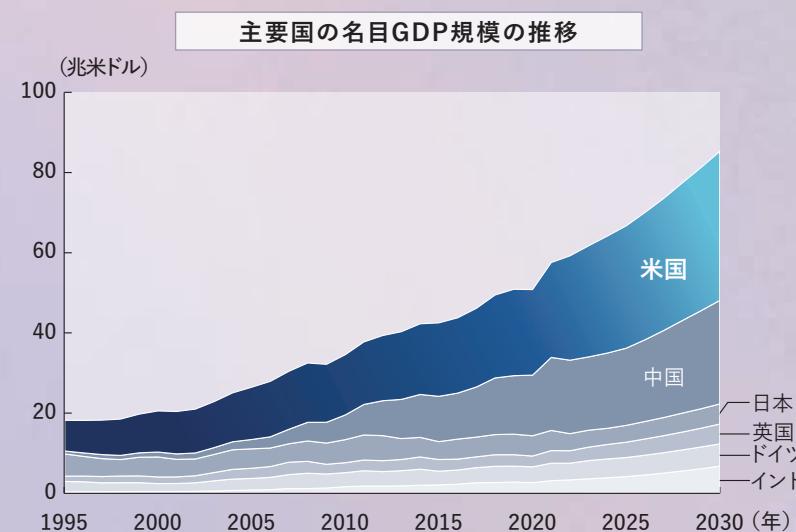
世界最大の経済大国である米国は、AIなどハイテク関連銘柄が株式市場をけん引するなど、近年はその存在感を一層高めています。一方で、多極化する世界情勢のなかで米国以外にも新たな投資機会が生まれており、成長が期待される企業が多数存在しています。

依然として世界経済をけん引する米国

米

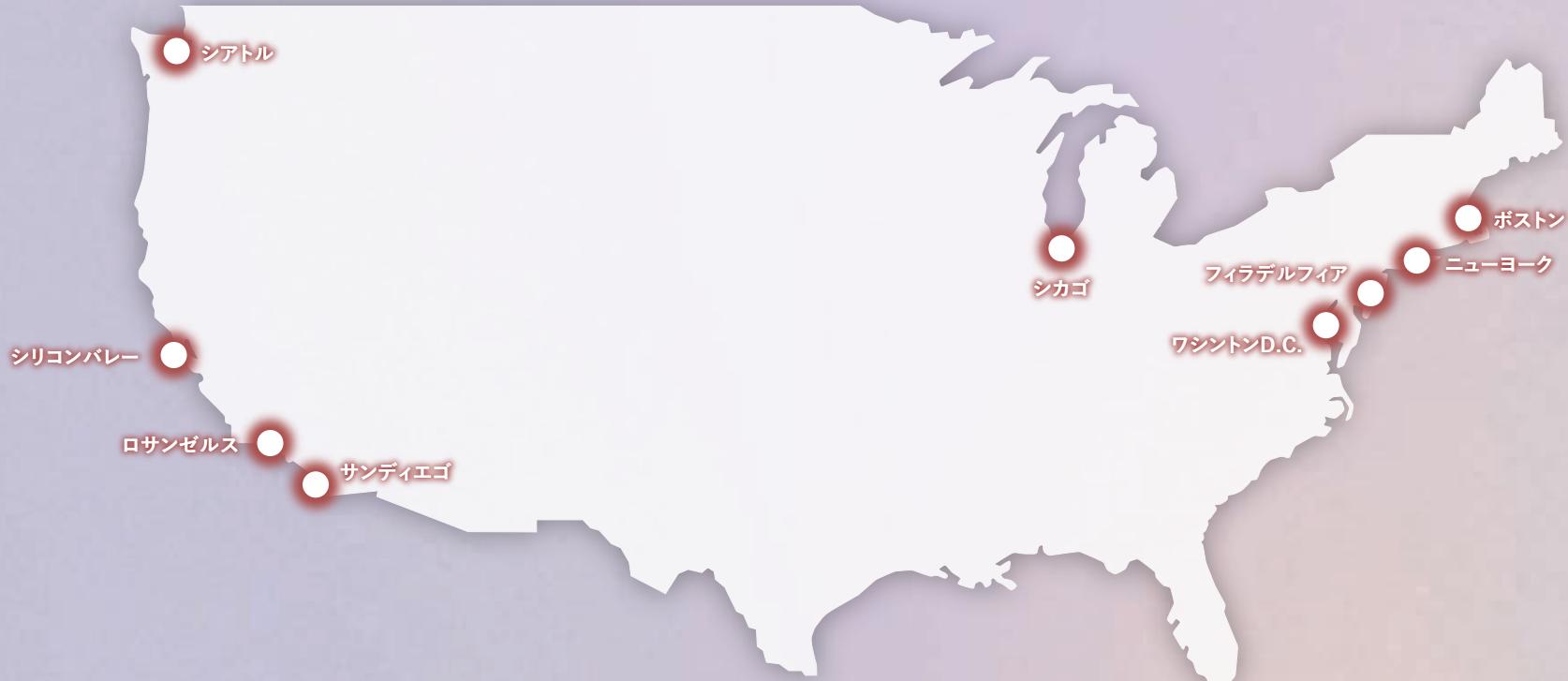
国はさまざまな成長分野において積極投資を続けるなど、今後も世界経済をけん引していくとみられます。

米国はGDP規模において世界全体の約3割を占める世界最大の経済国です。また、同国は3億人超の人口を抱える世界有数の市場でもあります。



世界の人口ランキング		
順位	国名	人口(億人)
1	インド	14.5
2	中国	14.1
3	米国	3.4
4	インドネシア	2.8
5	パキスタン	2.5
	⋮	
12	日本	1.2

※2024年時点
出所:LSEGのデータをもとに
アセットマネジメントOne作成



G7(先進7カ国)の研究開発支援額(億米ドル)



※2022年時点
出所:OECD(経済協力開発機構)のデータをもとに
アセットマネジメントOne作成

※2025年時点
※上記は"The Global Startup Ecosystem Report 2025"より、スタートアップ企業
が育ちやすい都市や地域上位20のうち米国の都市・地域を掲載。
出所:Startup GenomeのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

米国の経済成長の要は情報技術といえます。世界
有数の研究開発投資国として、米国は有名なイノ
ベーション拠点*を多く抱えており、革新的な技術
が生まれやすい環境にあります。

*イノベーションに向けて知見やアイデア、ノウハウ等を持つ担い手が集う場所や、
これら担い手をバーチャルに結ぶネットワークの結節点となる拠点をいいます。

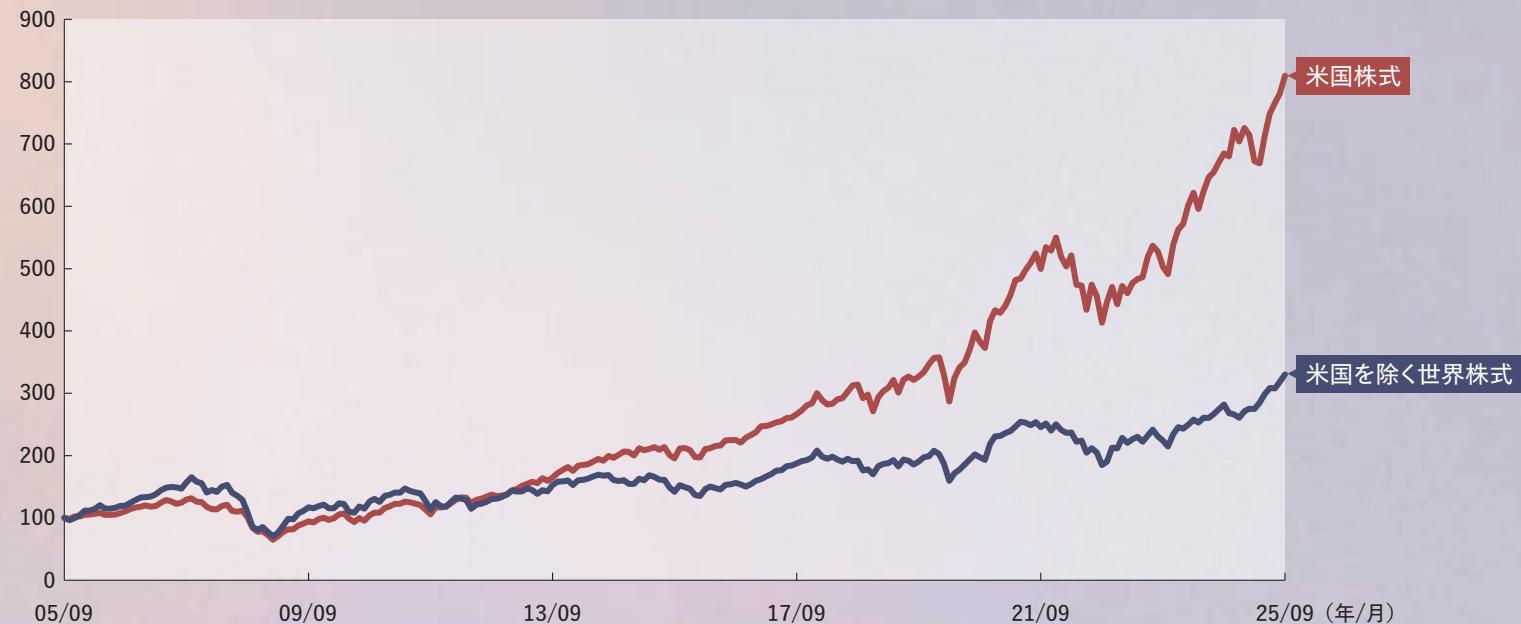
※上記は過去の情報または作成時点の見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

米

国株式は2010年代以降、米国を除く世界株式より高いパフォーマンスとなっていました。

2010年代以降、米国株式と米国を除く世界株式には、乖離する傾向がみられます。米国株式が顕著に上昇している一方で、米国を除く世界株式は緩やかな上昇になっています。

米国株式と米国を除く世界株式の株価推移



※期間:2005年9月末～2025年9月末(月次)

※2005年9月末=100として指数化

※米国株式:MSCI 米国インデックス(配当込み、米ドルベース)、米国を除く世界株式:MSCI AC ワールド(除く米国)インデックス(配当込み、米ドルベース)

出所:ブルームバーグのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

米

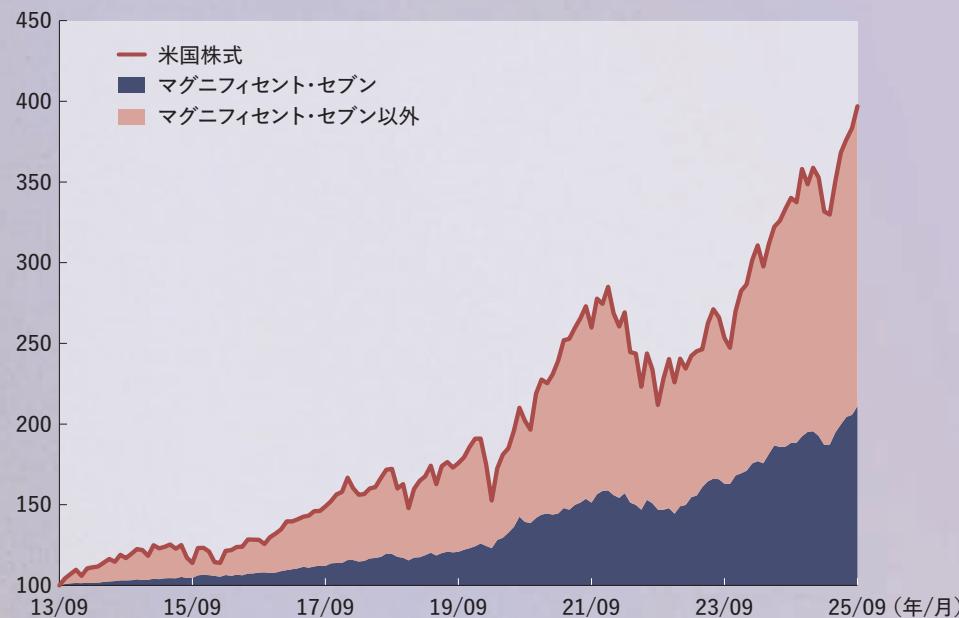
国株式市場の2010年代以降の上昇要因として、一部ハイテク関連銘柄への資金集中が考えられます。

2013年9月以降の米国株式の累積リターンの4割程度をマグニフィセント・セブン*が占めています。

時価総額をみても、米国株式市場における情報技術(IT)セクターおよびマグニフィセント・セブンの比率は47.5%、世界株式市場においても35.6%と高い比率となっています。一方、米国を除く世界株式でのITセクターの比率は13.8%にとどまっています。

*マグニフィセント・セブンは米国のハイテク企業7社(アップル、マイクロソフト、アルファベット、アマゾン・ドット・コム、メタ・プラットフォームズ、テスラ、エヌビディア)です。

米国株式とマグニフィセント・セブンの累積リターン



※期間:2013年9月末(マグニフィセント・セブンの中で最後にMSCI 米国インデックスに組入れられたテスラの組入れ開始月)～2025年9月末(月次)

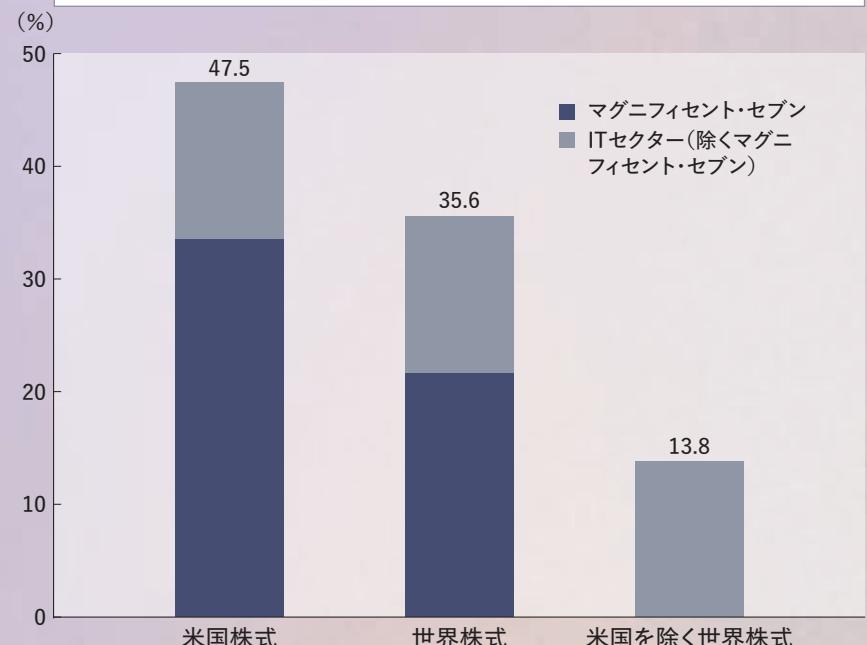
※2013年9月末=100として指数化

※米国株式はMSCI 米国インデックス(米ドルベース)

※マグニフィセント・セブン以外は、米国株式の累積リターンから、マグニフィセント・セブンの累積リターンを差し引いて算出しています。

出所:ブルームバーグ、LSEGのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

米国株式・世界株式・米国を除く世界株式のITセクターおよびマグニフィセント・セブンの比率



※2025年9月末時点

※米国株式はMSCI 米国インデックス、世界株式はMSCI AC ワールドインデックス、米国を除く世界株式はMSCI AC ワールド(除く米国)インデックス

※ITセクター(除くマグニフィセント・セブン)は、ITセクターからマグニフィセント・セブンに含まれる銘柄(アップル、マイクロソフト、エヌビディア)を除いています。

※上記はすべて米ドルベースでの時価総額の比率です。

出所:MSCIのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

多極化する世界情勢 ～脱グローバル化の進行～

私

たちを取り巻く環境は、経済的な結びつきや関係性を変化させながら、日々大きく変化しています。また、グローバル化の加速やデジタル経済の拡大によって、国際社会は飛躍的に発展しました。ところが、2020年代に入ると、新型コロナウイルスのパンデミックや世界情勢の緊迫化など大きな変化が頻発し、各国は脱グローバル化（ディグローバリゼーション）へと動き出しています。

インフレの時代

1970年代～1990年代初頭

東西冷戦の終結

オイル・ショックによるインフレが進行。日本ではバブル経済が発生。ソ連の経済停滞が冷戦構造を揺るがし、国際経済協力の動きが出始める。



グローバル化の加速

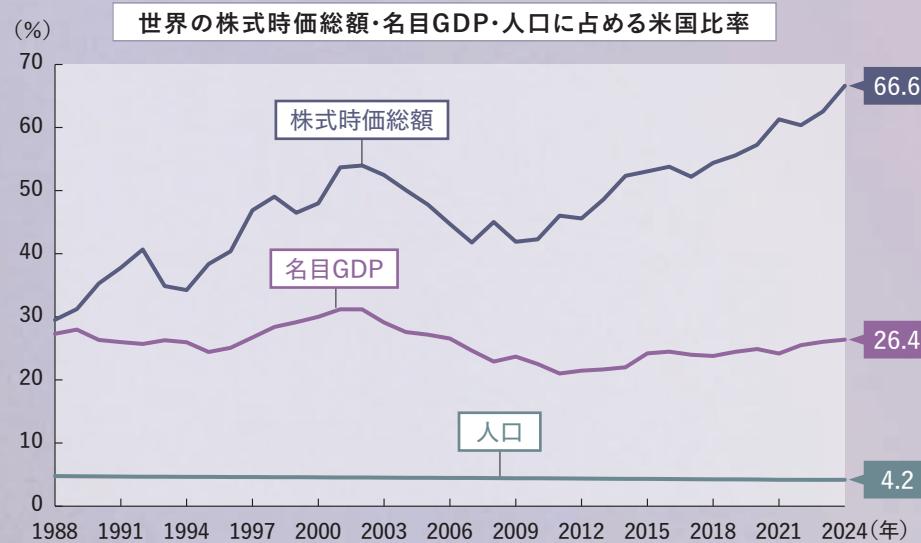
1990年代～2000年代

自由貿易、資本移動、技術革新

WTO（世界貿易機関）設立やNAFTA（北米自由貿易協定）締結により貿易自由化に向けた動きが広がる。中国が経済的に台頭。金融市場のグローバル化が進展し、資金調達が容易となるなか、IT関連の技術革新が進展。

このような環境下、米国が依然として経済大国であることに変化はありませんが、世界に占める米国の人口比率・GDP比率は横ばいにあるなか、世界の株式市場の時価総額に占める米国の比率は上昇を続けており、これは、米国株式が実体経済の成長以上に評価されていることを示しています。

また、米国では足もと、政策の不確実性や関税をめぐる動き、財政赤字、米ドル離れへの懸念といったリスクが浮上しています。



※期間:1988年～2024年(年次)

※株式時価総額はMSCI AC ワールドインデックスに占める米国の比率

出所:IMF、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント、LSEGのデータをもとに
アセットマネジメントOne作成

※上記は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

デジタル化とグローバル化の浸透 2010年代

サプライチェーンの国際化、
デジタル経済の拡大

国際的なサプライチェーンが拡大し、クラウドサービスやシェアリングエコノミーなど新たなビジネスやサービスが普及。一方で、米中貿易摩擦が世界経済に影響を与える。

脱グローバル化の進行 2020年代

パンデミック、地政学的緊張、
ナショナリズムの台頭など

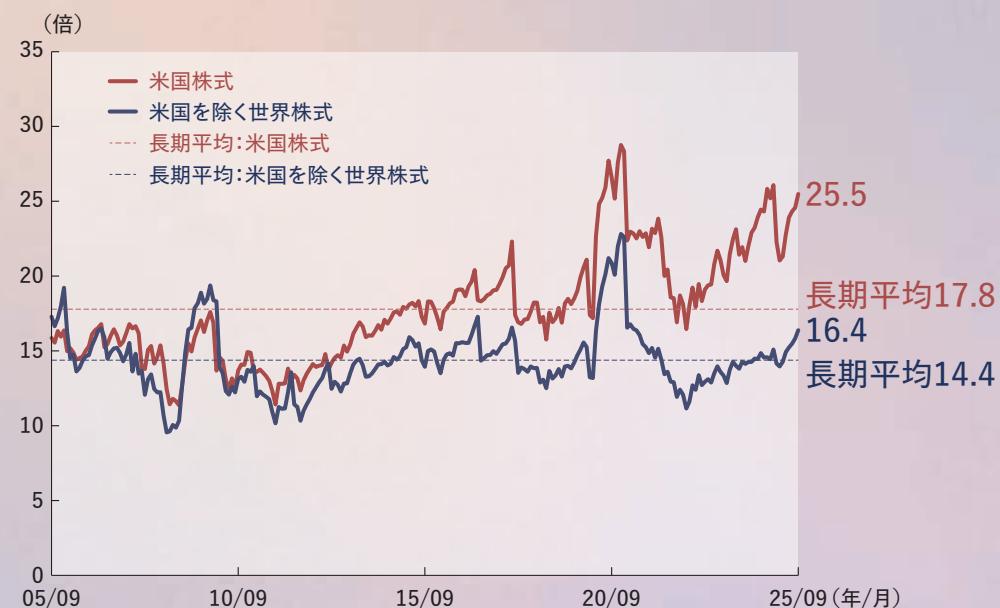
新型コロナウイルスのパンデミック以降、各国・地域で国内回帰の動きが強まる。ロシアによるウクライナ侵攻がサプライチェーンに深く影響。脱炭素経済への転換やナショナリズムの動きが広がる。

出所:各種情報をもとにアセットマネジメントOne作成

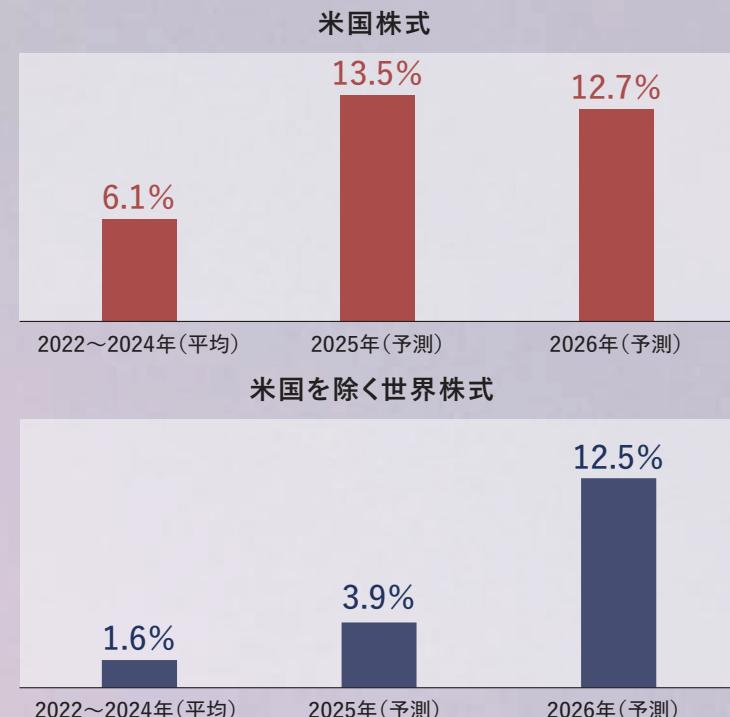
足 もとの株価バリュエーションをみると、米国株式は割高感が意識される一方で、米国を除く世界株式には相対的に割安感がみられます。

米国株式が大きく上昇したことから、足もとでは、割高感が意識される展開となっていますが、米国を除く世界株式には相対的に割安感がみられます。米国を除く世界株式は、2026年には米国と同水準の利益成長が見込まれています。

米国株式と米国を除く世界株式の予想PER(株価収益率)の推移



米国株式と米国を除く世界株式の予想EPS(1株当たり利益)の前年比伸び率

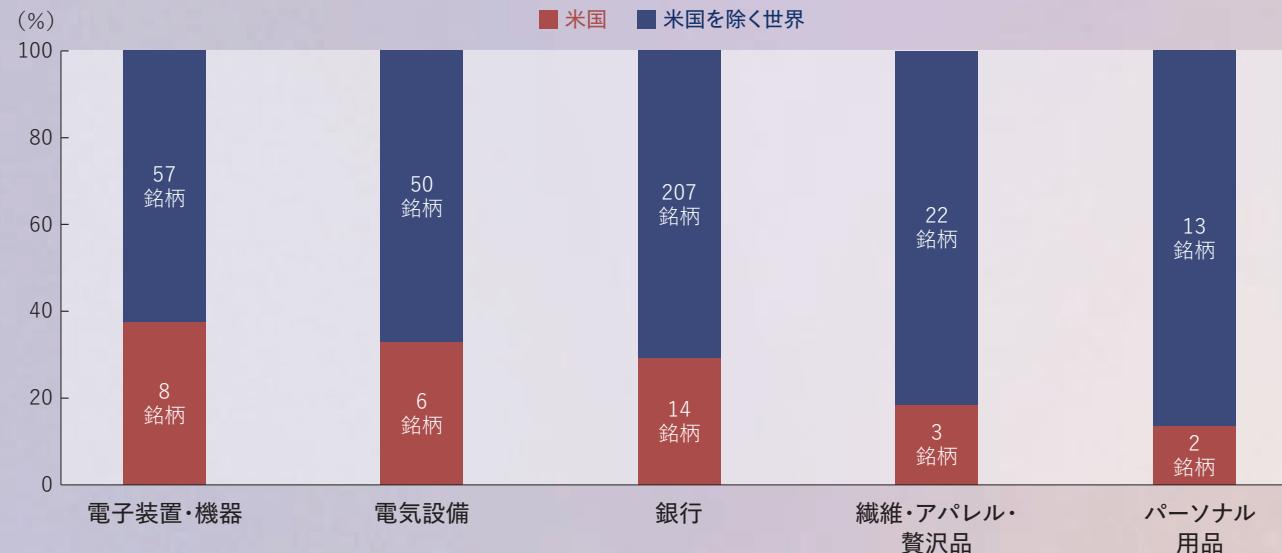


世

界には米国以外にも多くの企業が存在しています。

その中には、私たちが日常的に目にするような投資対象となりうる企業が数多く存在しています。

世界株式の各業種における米国と米国を除く世界の比率と銘柄数



※2025年9月末時点

※世界株式はMSCI AC ワールドインデックス

※上記比率はすべて米ドルベースでの時価総額の比率です。

※業種は世界産業分類基準(GICS)に基づいています。

出所:モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

International Opportunity

インターナショナル・オポチュニティ・ファンド(為替ヘッジなし)

主に米国を除く世界(わが国および新興国を含みます。)の株式に実質的に投資するファンドです。

※投資対象国についてはP10をご覧ください。

インターナショナル・オポチュニティ株式運用戦略

最大のリスクは損をすること

Risk is losing money.

私たちの運用における最大の目的は、
中長期(3~5年)の「リターンの最大化」と「投資元本の毀損回避*」です。

先行きが不透明な昨今、マクロ経済の動向やイベント等により、短期的な変動はありますが、
私たち運用チームのスタンスはいつも一貫しており、
市場動向に対して極端に強気になったり、弱気になったりすることはありません。

私たちが投資したいと考えるハイクオリティ成長企業、

それは、変化の時代をリードする成長企業、
あるいは時代の変化にも揺るがない持続可能な成長企業です。

*インターナショナル・オポチュニティ株式運用戦略のリスク管理において、最重要視しているものです。

当戦略を理解するための3つのポイント

01

米国を除く世界のあらゆる投資機会を追求

02

魅力的と考える銘柄に厳選投資

03

約15年にわたる優れた運用実績

※米国を除く世界の株式には、米国以外の金融商品取引所に上場する企業に加えて、売上や利益、保有資産などで50%以上を米国以外が占める企業や、米国以外の法律に基づいて設立された企業などを含みます。

01

米国を除く世界のあらゆる投資機会を追求

当戦略は米国を除く世界の株式市場を投資対象にしています。

私たちは、多極化する世界情勢のなかで、

経済大国米国以外の国・地域においても

魅力的な「ハイクオリティ成長企業」が存在していると考えているからです。

また、私たちは、地域・セクター・テーマおよび指数にとらわれることなく、
ボトムアップ・アプローチによる企業分析および業界分析に注力することが、

広い視野で投資機会を見つけることにつながり、

長期的に良好なパフォーマンスが達成できると考えています。

ファンドが活用するインターナショナル・オポチュニティ株式運用戦略とは

International Opportunity

米国を除く世界

(投資)機会

当ファンドにおいて、「インターナショナル」とは、米国を基準とした海外(他国)を指します。

- 米国を除く世界(わが国および新興国を含みます。)の株式へ投資します。
- 地域、セクター、テーマを特定せず、広い視野で投資機会を追求します。

モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント
グローバル・オポチュニティ株式運用チーム
運用責任者

クリスチャン・ヒュー



International Opportunity

*インターナショナル・オポチュニティ株式運用戦略は、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントの運用戦略「インターナショナル・アドバンテージ戦略」を指します。
*投資対象国についてはP10をご覧ください。

02

魅力的と考える銘柄に厳選投資

私たちは、米国を除く世界の魅力的と考える銘柄を厳選して、
約 25 ~ 50 銘柄に集中投資を行っています。

投資家のみなさまから「集中投資はリスクが高いのでは?」という質問を
よくいただきますが、私たちは集中投資がリスクの高い投資だとは考えていません。
むしろ、よく知らない企業への投資こそリスクだと考えています。
企業を徹底的に調査・分析し、深く理解したうえで
ハイクオリティ成長企業と判断した株式にのみ投資をすることこそ、
最大のリスク回避であると考えています。

また、私たちは『株価が割安かどうか』も重視しています。
どれだけ魅力的なハイクオリティ成長企業の株式であっても割安な水準でないと
判断した場合には投資することはありません。

Best of the Best

※投資対象国についてはP10をご覧ください。



ハイクオリティ成長企業とは



*1 ESGとは、環境(Environment)・社会(Social)・企業統治(Governance)の頭文字をとった略称です。

*2 企業ぐるみの不正や、違法行為等を防止するために企業を統制・監視する仕組みのこと。

※資料作成時点のファンドマネジャーの考えに基づくものであり、今後予告なく変更される場合があります。

出所：モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントの情報をもとにアセットマネジメントOne作成

Five Qualities

03

約15年にわたる優れた運用実績

私たちは、過去のデータを分析するのではなく、長期的な視点に立ち、持続的な成長を生み出す「未来」に投資をすることが、長期的なリターンにつながっていくと考えます。

先行きが不透明な昨今、マクロ経済の動向やイベント等により、短期的な変動はありますが、私たち運用チームのスタンスはいつも一貫しており、市場動向に対して極端に強気になったり、弱気になったりすることはありません。

私たちは揺るぎない信念を持ち、魅力的と考えるハイクオリティ成長企業を発掘し、投資することを継続しています。

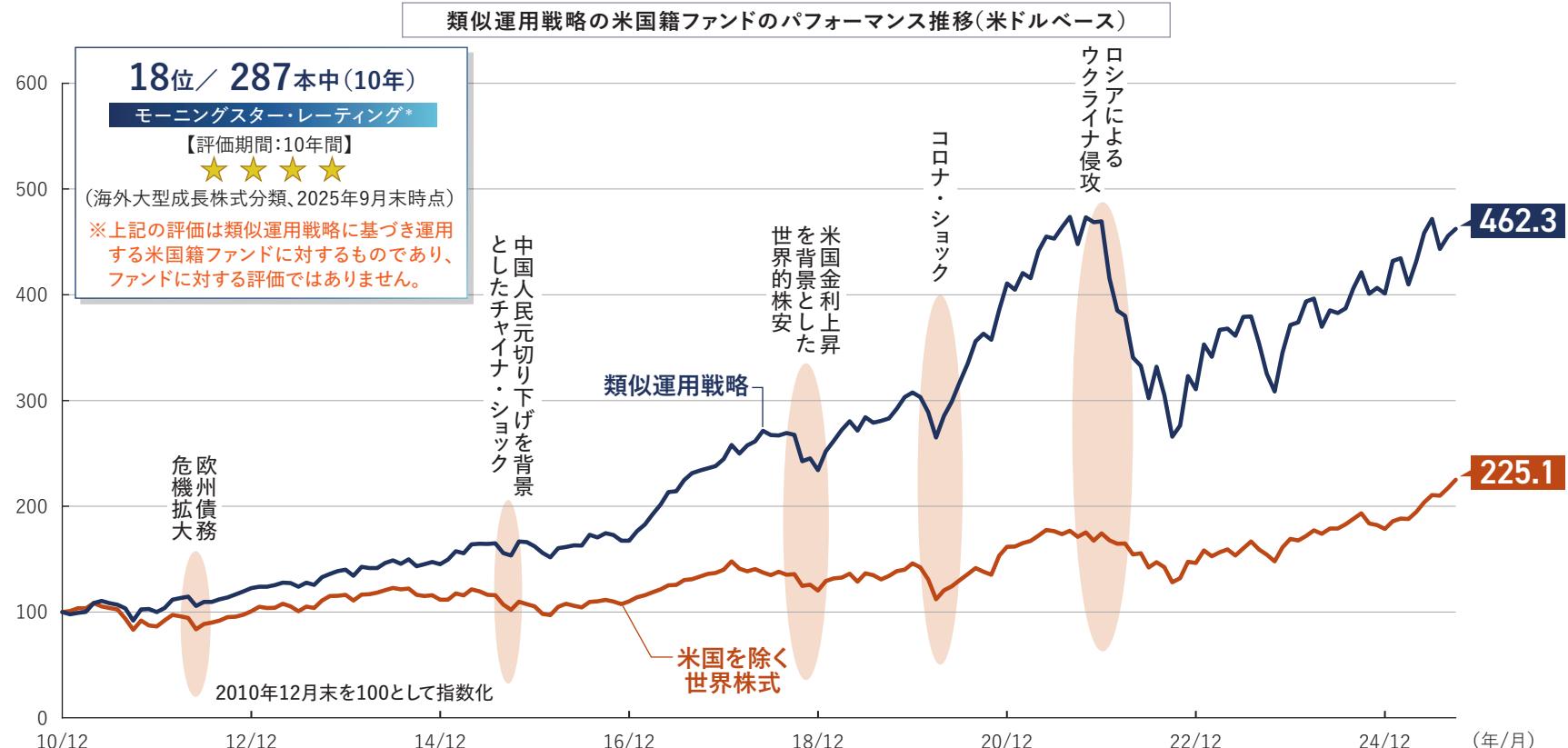
一方、時代の変化にあわせてリサーチ体制を進化させてきました。厳格な運用プロセスを徹底しつつも、異なる経歴を持つ人材で議論することで、より多くのアイデアが生まれ、投資機会を獲得できると信じており、この柔軟さが約15年にわたる優れた運用実績につながったと考えます。



Long-term alignment

(ご参考)類似運用戦略のパフォーマンス

下記は、ファンドと類似運用戦略で運用する米国籍ファンド「モルガン・スタンレー・インターナショナル・アドバンテージ・ポートフォリオ クラス」のパフォーマンスを表しています。
ファンドの運用実績とは直接的な関係はありません。また、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。



※期間:2010年12月末(設定月)～2025年9月末(月次)

※類似運用戦略の米国籍ファンドの運用実績は、運用費用控除前、分配金再投資、米ドルベースのパフォーマンスを表しています。

※米国を除く世界株式は、MSCI AC ワールド(除く米国)インデックス(税引後配当込み、米ドルベース)を使用しています。同指標は、類似運用戦略のベンチマークであり、ファンドのベンチマークではありません。

*対象ファンドのリスク調整後パフォーマンスが、カテゴリー分類内のファンド群の中で相対的にどのランクに位置するかを、5段階の星印で表示します。

©2025 Morningstar. All Rights Reserved.ここに含まれる情報は、(1)Morningstarおよび／またはそのコンテンツ提供者の専有財産であり、(2)複写または配布は禁止されており、また(3)正確性、完全性及び適時性のいずれも保証するものではなく、また(4)投資、税務、法務あるいはその他を問わず、いかなる助言を構成するものではありません。ユーザーは、この情報の使用が、適用されるすべての法律、規制、および制限に準拠していることを確認する責任を単独で負います。Morningstarおよびそのコンテンツ提供者は、この情報の使用により生じるいかなる損害または損失についても責任を負いません。過去の実績は将来の結果を保証するものではありません。

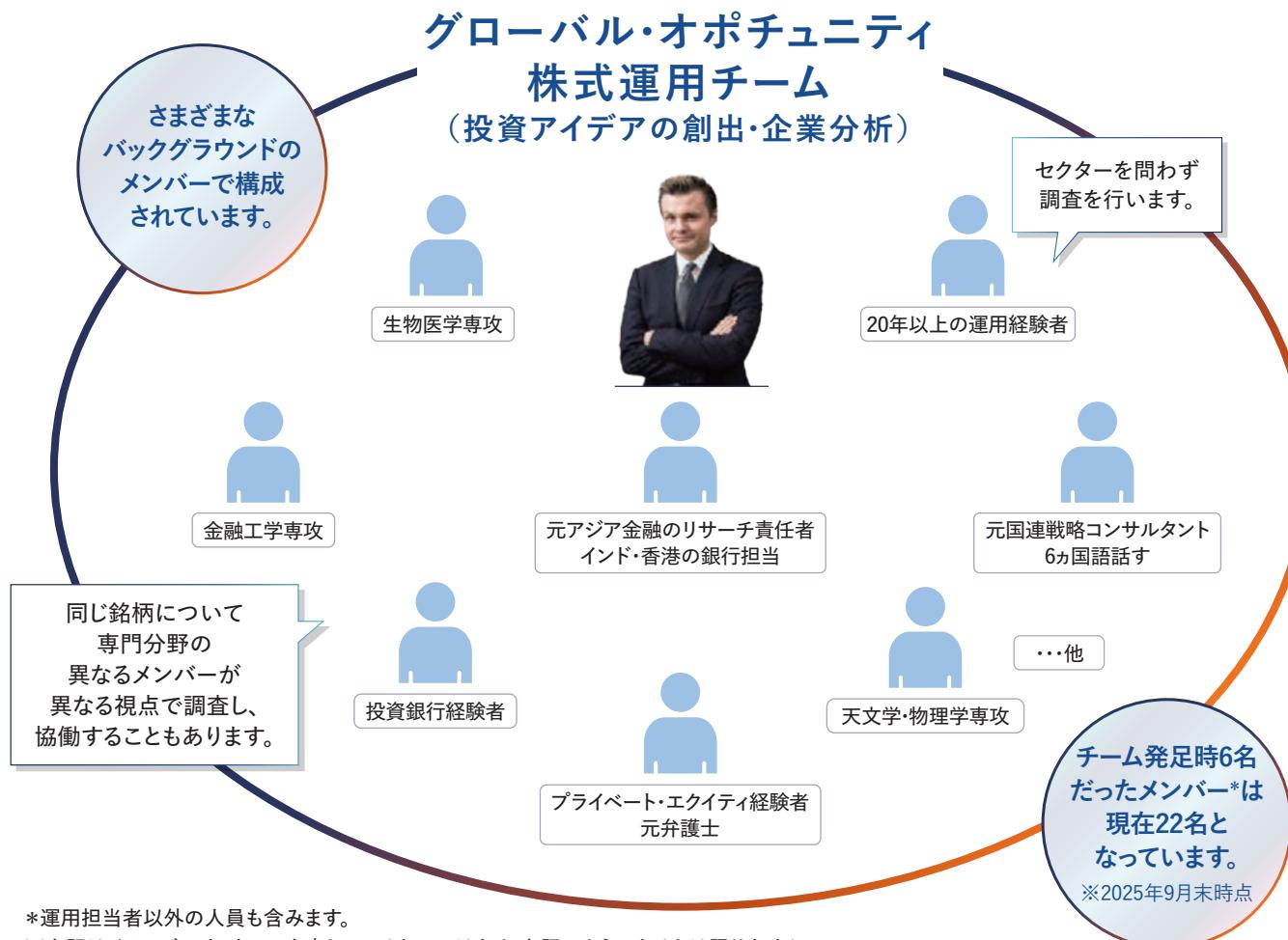
出所:ブルームバーグ、モーニングスター・ダイレクト、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

※上記は過去の情報または一定期間の実績を分析したものであり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

良好な運用実績を裏付ける運用体制

「異なるベストアイデアを持つ人材で構成された運用チーム」

- 運用チームは国籍、性別だけでなく専門分野も異なる多様性のあるプロフェッショナルが集まったダイバーシティなチームで構成されています。
- 説明責任を持つこと、異なる視点を持つ精鋭がチームとして力を合わせることが良好な運用成績につながる考えます。



*運用担当者以外の人員も含みます。

※上記はイメージです。すべてを表しているものではなく、上記のようになるとは限りません。

※上記は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

説明責任・知的好奇心

多くの運用会社は調査と運用が別組織となっていますが、私たちはそれを官僚主義的と感じているため、チームメンバー全員が説明責任を負うことで各自の投資アイデアに当事者意識を持つようにしています。また、チームを管理するにあたり各人の創造性を優先しています。異なる視点を持つ精鋭チームだからこそ、良好な運用成績を生み出すことができると考えています。

3年間のパフォーマンス

私たちは、報酬の多くを自身の在籍する運用チームの投資戦略に投資することを義務付けています。また、長期的なパフォーマンスを追求すべく、運用チームの評価は当運用戦略の3年間のパフォーマンスと連動しています。これにより、運用チームと投資家のみなさまの利益は一致することになります。



クリスチャン・ヒューからのメッセージ

投資家のみなさまが「基準価額が上昇したら売るべきタイミングなのか」と考えることは不思議なことではありません。

It's only natural that you would be wondering. I've done well. Is now the time to sell?

しかし私は、市場に居続けることが重要だと考えます。

And what we would say is that it's really about the time that you invest in the market.

変動する市場で売買のタイミングを計ることは難しいものです。

And it's very difficult to try to time the market itself.

当運用チームは、投資にあたり企業の株価が、本質的な価値よりも割高なのか割安なのかを判断しています。

We are going to say when a company is trading at higher or lower than what its intrinsic value is.

割安と判断して投資した企業の株価が本質的な価値に近づいた段階で売却し、次の銘柄に投資するため、みなさまが売買のタイミングを心配する必要はありません。

If we can buy companies at a price far less than the value, ultimately, we'll make money for you if we're selling those companies, when they're closer to what that value is. But we're doing that work for you. You don't have to worry about that.

銘柄の売買のタイミングについては、当運用チームにお任せください。

Let us worry about the buys and the sells in the short term.

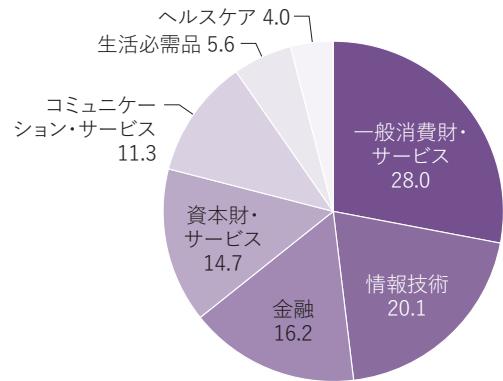
投資家のみなさまには当運用チームをパートナーに選んでいただくことで、株式投資のリターンを享受していただけると幸いです。

And, you know, ultimately, I think that this will lead to the greatest possible partnership experience for everybody.

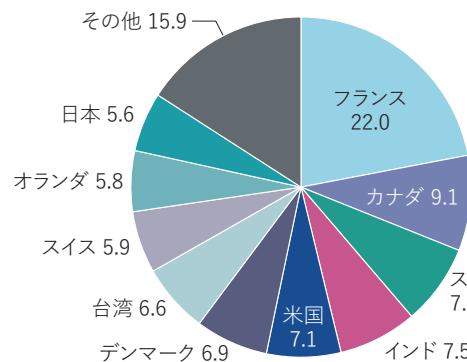
(ご参考)類似運用戦略の状況

(ご参考)類似運用戦略のポートフォリオ

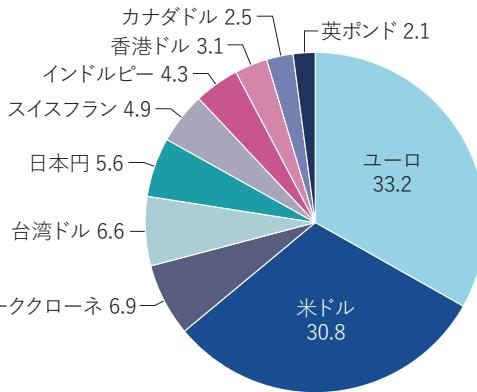
業種別組入比率(%)



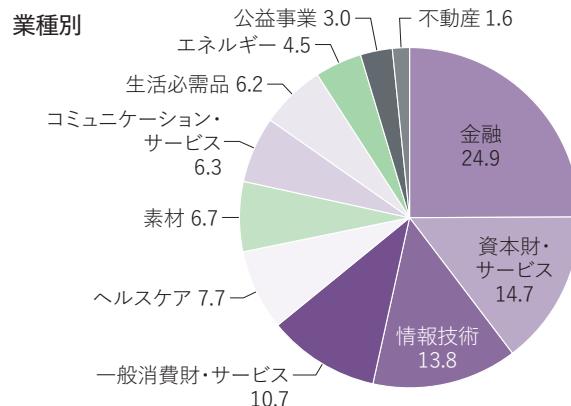
国・地域別組入比率(%)



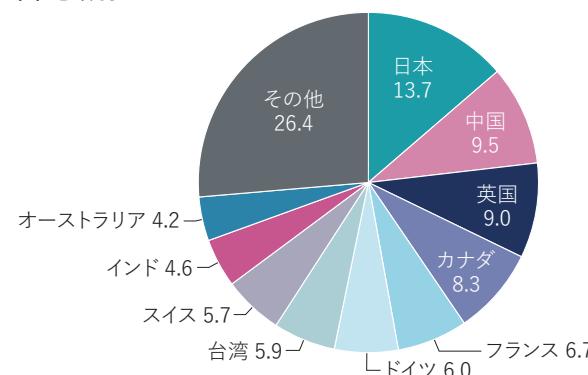
通貨別組入比率(%)



MSCI AC ワールド(除く米国)インデックスの組入比率(%)



国・地域別



※2025年9月末時点

※比率は組入株式評価額に対する割合です。

※業種はGICS(世界産業分類基準)に基づいています。

※国・地域は、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントの基準によるものです。米国以外の金融商品取引所に上場する企業などであっても米国と区分する場合があります。投資対象国についてはP10をご覧ください。

※MSCI AC ワールド(除く米国)インデックスは、類似運用戦略のベンチマークであり、ファンドのベンチマークではありません。

※比率の合計は、四捨五入の関係で100%とならない場合があります。

出所:ファクトセット、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

上記は、ファンドと類似運用戦略で運用する米国籍ファンド「モルガン・スタンレー・インターナショナル・アドバンテージ・ポートフォリオ クラスI」のポートフォリオを表しています。
ファンドの運用実績とは直接的な関係はありません。また、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

※上記は過去の情報または運用実績であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

(ご参考)類似運用戦略のポートフォリオ

組入上位10銘柄

順位	銘柄名	国・地域	業種	組入比率(%)
1	エルメス・インターナショナル	フランス	一般消費財・サービス	8.1
2	スボティファイ・テクノロジー	スウェーデン	コミュニケーション・サービス	7.7
3	DSV	デンマーク	資本財・サービス	6.9
4	台湾セミコンダクター	台湾	情報技術	6.6
5	モンクレール	イタリア	一般消費財・サービス	5.4
6	シュナイダー・エレクトリック	フランス	資本財・サービス	5.3
7	ASMLホールディング	オランダ	情報技術	4.7
8	ロレアル	フランス	生活必需品	4.6
9	メルカドリブレ	米国*	一般消費財・サービス	4.5
10	キーエンス	日本	情報技術	4.2

組入銘柄数:32銘柄

*米国に区分していますが、ブラジルをはじめとする中南米における収益が9割以上を占めるため、投資対象としています。投資対象国についてはP10をご覧ください。

※2025年9月末時点

※組入比率は、組入株式評価額に対する割合です。

※国・地域は、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントの基準によるものです。

※業種は世界産業分類基準(GICS)に基づいています。

※上記は個別銘柄の売買を推奨するものではありません。また、当ファンドへの組入れまたは保有の継続を示唆・保証するものではありません。

出所:モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

上記は、ファンドと類似運用戦略で運用する米国籍ファンド「モルガン・スタンレー・インターナショナル・アドバンテージ・ポートフォリオ クラスI」のポートフォリオを表しています。
ファンドの運用実績とは直接的な関係はありません。また、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

※上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

(ご参考)個別銘柄のご紹介:変化の時代をリードする成長企業

シュナイダーエレクトリック(フランス)

業種:資本財・サービス

エネルギー管理や産業オートメーションの世界的大手

評価のポイント

- グローバルな事業規模と専門知識に裏付けされた包括的ソリューション
グローバルな事業規模や各地域の事情に精通した専門知識を兼ね備えています。これにより、さまざまな分野の顧客に対し、ハードとソフト、サービスを組み合わせた包括的なソリューションの提供が可能になっています。
- 顧客との長期的関係
幅広い製品群と深い専門性が、顧客の他社への乗り換えを防いでいます。

株価推移



※期間:2020年9月末～2025年9月末(月次)

*米国に区分していますが、ブラジルをはじめとする中南米における収益が9割以上を占めるため、投資対象としています。投資対象国についてはP10をご覧ください。

※国・地域は、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントの基準によるものです。

※業種はGICS(世界産業分類基準)に基づいています。

※上記は2025年9月末時点の一例であり、個別銘柄の売買を推奨するものではありません。また、当ファンドへの組入れまたは保有の継続を示唆・保証するものではありません。

出所:ブルームバーグ、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

メルカドリブレ(米国*)

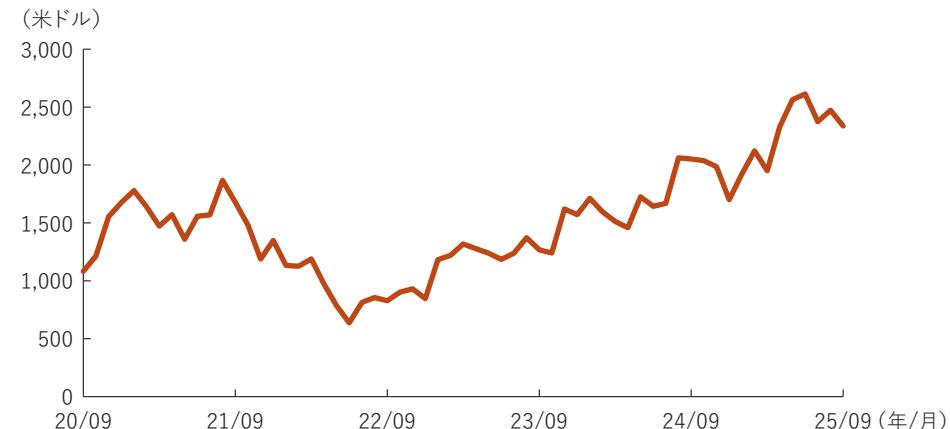
業種:一般消費財・サービス

南米市場最大の電子取引サイトを運営

評価のポイント

- 南米市場における圧倒的なリーダーシップ
インターネット普及率が急速に高まっている南米において圧倒的地位を確立しており、市場の拡大から大きな恩恵を受けることが期待できます。
- eコマースとフィンテックを統合した独自のプラットフォーム
eコマースに同社独自のデジタル決済プラットフォーム「メルカド・パゴ」を活用しています。南米では金融サービスへのアクセスが限られている人が多く、メルカド・パゴによって利便性が向上し、ユーザーの囲い込み効果を高めています。

株価推移



※期間:2020年9月末～2025年9月末(月次)

※上記は過去の情報または作成時点の見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

(ご参考)個別銘柄のご紹介: 時代の変化にも揺るがない持続可能な成長企業

エルメス・インターナショナル(フランス)

業種:一般消費財・サービス

革製品やスカーフを主力とするフランスの高級ブランド

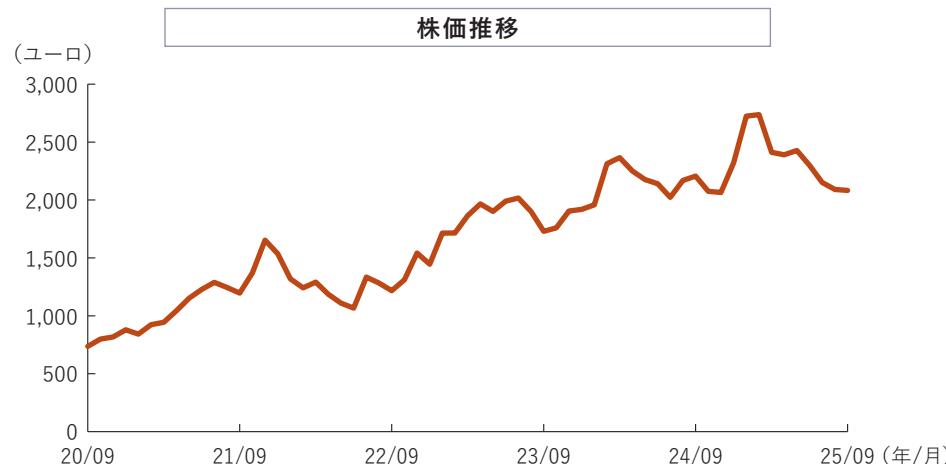
評価のポイント

- 高いブランド力に裏付けされた強い価格決定力

高品質で、希少性の高い製品は、景気変動の影響を受けにくい強固な価格決定力をもたらしています。また、独自の流通ネットワークと厳格な品質管理によって、ブランドイメージを高く保ち、他社との差別化を確立しています。

- 独自性を守る同族経営

同族経営によって、長期的な視点でブランドの独自性と価値を維持する経営判断を可能にしています。



※期間:2020年9月末～2025年9月末(月次)

※国・地域は、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントの基準によるものです。

※業種はGICS(世界産業分類基準)に基づいています。

※上記は2025年9月末時点の一例であり、個別銘柄の売買を推奨するものではありません。また、当ファンドへの組入れまたは保有の継続を示唆・保証するものではありません。

出所:ブルームバーグ、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

ロレアル(フランス)

業種:生活必需品

フランスに本社を置く化粧品メーカーの世界最大手

評価のポイント

- 多様なブランド構成

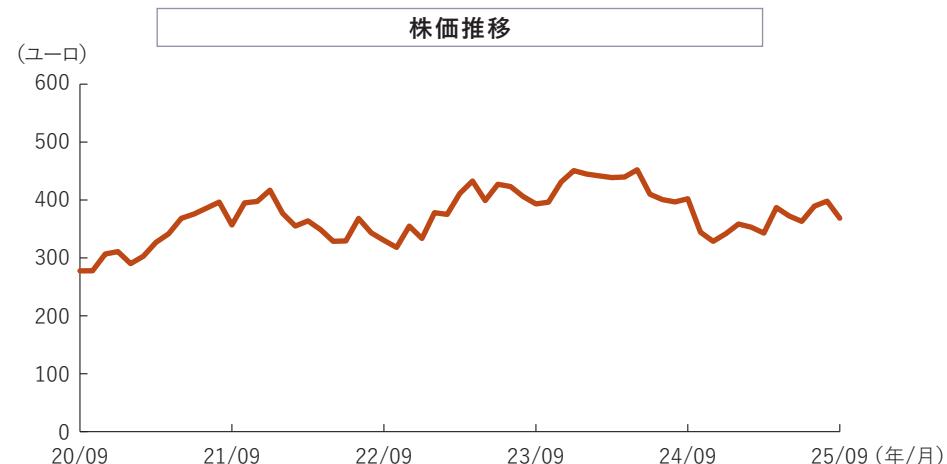
世界150ヵ国以上で37の国際的ブランドを展開し、業界トップの地位を確立しています。多様なブランド構成と長年にわたって培われた経験が、強固な顧客基盤の構築ならびに強力な価格決定力の維持を可能にしています。

- 高い研究開発力と革新性

高い研究開発力を持ち、高水準の投資を継続的に行ってています。これにより、クリーンビューティー^{*1}やサステナビリティといった顧客の嗜好の変化に対応した革新的な製品を生み出し、プレミアム化^{*2}からも恩恵を受けています。

*1 肌や健康、環境への配慮を重視した製品

*2 品質の向上や機能の追加などによって訴求力を高め、より高い価格で販売するビジネス戦略



※期間:2020年9月末～2025年9月末(月次)

※上記は過去の情報または作成時点の見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

ファンドの特色

1

主として、米国を除く世界（わが国および新興国を含みます。）の株式（上場予定を含みます。）^{*1、*2}に実質的に投資を行い、信託財産の成長をめざして積極的な運用を行います。

*1 米国を除く世界の株式には、米国以外の金融商品取引所に上場する企業に加えて、売上や利益、保有資産などで50%以上を米国以外が占める企業や、米国以外の法律に基づいて設立された企業などを含みます。

*2 DR（預託証券）もしくは株式と同等の投資効果が得られる権利を表示する証券および証書等を含みます。

- インターナショナル・オポチュニティ・マザーファンド（以下「マザーファンド」という場合があります。）への投資を通じて、株式に実質的に投資を行います。なお、マザーファンドの組入比率は、原則として高位を保ちます。
- 株式の実質組入比率は、原則として高位を保ちます。
- 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。このため、基準価額は為替変動の影響を受けます。

2

ポートフォリオの構築にあたっては、投資アイデアの分析・評価や、個別企業の競争優位性、成長力の評価に基づき選定した質の高いと考えられる企業（「ハイクオリティ成長企業」といいます。）の中から、市場価格が理論価格より割安と判断される銘柄を厳選して投資を行います。

- ボトムアップ・アプローチを基本に、持続可能な競争優位性を有し、高い利益成長が期待される銘柄を選定します。
- マザーファンドの運用にあたっては、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・インク^{*3}に株式等の運用の指図に関する権限の一部を委託します。なお、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・インクは、その委託を受けた運用の指図に関する権限の一部（株式等の投資判断の一部）を、モルガン・スタンレー・アジア・リミテッド^{*4}およびモルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・カンパニー^{*5}に再委託します。

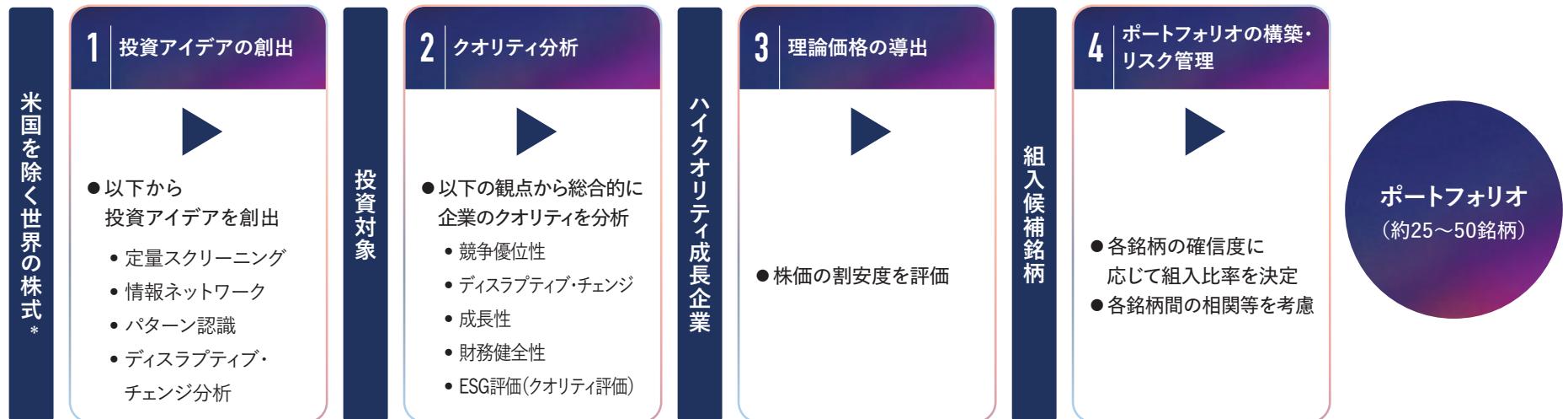
*3 モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントのニューヨーク拠点であり、資産運用業務等を営んでいます。

*4 モルガン・スタンレーの香港法人であり、証券業務、投資銀行業務、ウェルス・マネジメント業務、資産運用業務等を営んでいます。

*5 モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントのシンガポール拠点であり、資産運用業務等を営んでいます。

マザーファンド: 運用プロセス

当ファンドは、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントのインターナショナル・オポチュニティ株式運用戦略を用いて運用を行います。持続可能な競争優位性を有し、高い利益成長が期待される企業のうち、市場価格が理論価格より割安と判断される銘柄を厳選してポートフォリオを構築します。



投資アイデアの創出

・定量スクリーニング

成長率や利益率など企業の財務指標に基づき銘柄を調査します。

・情報ネットワーク

企業経営者、業界の専門家との面談など、運用委託先の運用チームのネットワークを活用し、銘柄を調査します。

・パターン認識

成功企業のビジネスモデルを地域や国、業界等が異なる企業に当てはめ、新規の投資アイデアの発掘につなげます。

・ディスラプティブ・チェンジ分析

新しい価値が既存の価値にどのようなインパクトを与え、長期的かつ巨大な変化になるのかを大局的に見極めます。

*米国を除く世界の株式には、米国以外の金融商品取引所に上場する企業に加えて、売上や利益、保有資産などで50%以上を米国以外が占める企業や、米国以外の法律に基づいて設立された企業などを含みます。
※上記はマザーファンドの運用プロセスです。

※インターナショナル・オポチュニティ株式運用戦略は、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントの運用戦略「インターナショナル・アドバンテージ戦略」を指します。

※運用プロセスは、2025年9月末現在のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

出所:モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントの情報をもとにアセットマネジメントOne作成

ファンドの投資リスク

当ファンドは、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)に投資しますので、ファンドの基準価額は変動します。これらの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
また、投資信託は預貯金と異なります。

基準価額の変動要因

株価変動リスク	ファンドは、実質的に株式に投資をしますので、株式市場の変動により基準価額が上下します。
業種および個別銘柄選択リスク	ファンドは、実質的に業種および個別銘柄の選択による投資を行いますので、株式市場全体の動向から乖離することがあり、株式市場が上昇する場合でもファンドの基準価額は下がる場合があります。
為替変動リスク	ファンドは、実質組入外貨建資産について原則として対円で為替ヘッジを行わないため為替変動の影響を受けます。このため為替相場が当該実質組入資産の通貨に対して円高になった場合には基準価額が下がる要因となります。
カントリーリスク	ファンドの実質的な投資対象国・地域における政治・経済情勢の変化等によっては、運用上の制約を受ける可能性があり、基準価額が下がる要因となります。
信用リスク	ファンドが実質的に投資する株式の発行者が経営不安・倒産に陥った場合、またこうした状況に陥ると予想される場合等には、株式の価格が下落したりその価値がなくなることがあります。基準価額が下がる要因となります。
流動性リスク	ファンドにおいて有価証券等を実質的に売却または取得する際に、市場規模、取引量、取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない場合には、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できることや、値動きが大きくなることがあります。基準価額に影響をおよぼす可能性があります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

お申込みメモ(みずほ銀行でお申込みの場合)

※ご購入の際は、投資信託説明書(交付目論見書)をご確認ください。

購入の申込期間	当初申込期間:2025年12月25日～2026年1月22日 継続申込期間:2026年1月23日以降
購入単位	店舗:20万円以上1円単位 みずほダイレクト[インターネットバンキング]:1万円以上1円単位 みずほ積立投信:1千円以上1千円単位
購入価額	当初申込期間:1口=1円 継続申込期間:購入申込受付日の翌営業日の基準価額
換金単位	1口単位
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
購入・換金申込不可日	ニューヨーク証券取引所、ニューヨークの銀行のいずれかの休業日に該当する日には、購入・換金のお申込みの受付を行いません。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金請求に制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止することおよびすでに受けた購入・換金のお申込みの受付を取り消す場合があります。
信託期間	2046年12月10日まで(2026年1月23日設定)
繰上償還	純資産総額が30億円を下回ることとなった場合等には、償還することがあります。
決算日	毎年12月9日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回の毎決算日に、収益分配方針に基づいて収益分配を行います。 ※お申込みコースには、「分配金受取コース」と「分配金再投資コース」があります。ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。
課税関係	当ファンドは課税上は株式投資信託として取り扱われます。 原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時の値上がり益および償還時の償還差益に対して課税されます。 ※公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度(NISA)の適用対象となります。当ファンドはNISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象です。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※税法が改正された場合等には、上記の内容が変更となることがあります。

お客さまにご負担いただく手数料等について(みずほ銀行でお申込みの場合)

詳細については、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

ご購入時	購入時手数料	購入価額に対して、販売会社が別に定める以下の手数料率を乗じて得た額とします。 購入時手数料は、商品や投資環境の説明および情報提供等、ならびに購入に関する事務手続き等にかかる費用の対価として、販売会社に支払われます。		
		購入申込代金	手数料率	
ご購入時	購入時手数料	1億円未満	3.30%(税抜3.00%)	
		1億円以上3億円未満	1.65%(税抜1.50%)	
		3億円以上	0.55%(税抜0.50%)	
※購入申込代金とは、購入申込時の支払総額をいい、購入申込金額に購入時手数料および当該購入時手数料に対する消費税等相当額を加算した金額です。				
ご換金時	換金時手数料	ありません。		
	信託財産留保額	ありません。		
保有期間中 (信託財産から 間接的にご負担 いただきます。)	運用管理費用 (信託報酬)	以下により計算される①と②の合計額とします。 ①ファンドの日々の純資産総額に対して年率1.848%(税抜1.68%)の率を乗じて得た額		
		支払先	内訳(税抜)	
		委託会社	年率1.05%	
		販売会社	年率0.60%	
		受託会社	年率0.03%	
※委託会社の信託報酬には、インターナショナル・オポチュニティ・マザーファンドの株式等の運用の指図に関する権限の委託を受けた投資顧問会社(モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・インク)に対する報酬(当ファンドの信託財産に属する当該マザーファンドの純資産総額に対して年率0.65%)が含まれます。 なお、当該投資顧問会社に対する報酬には、モルガン・スタンレー・アジア・リミテッドおよびモルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・カンパニーに対する報酬が含まれます。				
②投資対象とするマザーファンドにおいて有価証券の貸付の指図を行った場合は、マザーファンドの品貸料のうちファンドに属するとみなした額に55%(税抜50%)未満の率*を乗じて得た額。				
*2026年1月23日現在は、品貸料の49.5%(税抜45%)以内になります。				
その他の費用・ 手数料		組入有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、信託事務の諸費用、外国での資産の保管等に要する費用、監査費用等が信託財産から支払われます。		
		※その他の費用・手数料については、定期的に見直されるものや売買条件等により異なるものがあるため、事前に料率、上限額等を表示することができません。		

※上記手数料等の合計額、その上限額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することができません。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

委託会社その他関係法人の概要

委託会社	アセットマネジメントOne株式会社	信託財産の運用指図等を行います。
受託会社	みずほ信託銀行株式会社	信託財産の保管・管理業務等を行います。
販売会社	株式会社みずほ銀行 他	募集の取扱いおよび販売、投資信託説明書(目論見書)・運用報告書の交付、収益分配金の再投資、収益分配金、一部解約金および償還金の支払いに関する事務等を行います。

照会先

アセットマネジメントOne株式会社
コールセンター 0120-104-694 受付時間: 営業日の午前9時～午後5時
ホームページ アドレス https://www.am-one.co.jp/

ご注意事項等

投資信託ご購入の注意

- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成した販売用資料であり、金融商品取引法により義務付けられた資料ではありません。当ファンドのお申込みに際しては投資信託説明書(交付目論見書)および目論見書補完書面等をあらかじめお渡しいたしますので、内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当ファンドは、実質的に株式等の値動きのある有価証券(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。
- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。
- 投資信託は
 - 1.預金・保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、登録金融機関を通して購入した場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
 - 2.購入金額については元本保証および利回り保証のいずれもありません。
 - 3.投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は投資者のみなさまが負担することとなります。

指標の著作権等

- MSCI AC ワールドインデックス、MSCI AC ワールド(除く米国)インデックス、MSCI米国インデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指標の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 世界産業分類基準(GICS)は、MSCI Inc.(MSCI)およびStandard & Poor's Financial Services LLC(S&P)により開発された、MSCIおよびS&Pの独占的権利およびサービスマークであり、アセットマネジメントOne株式会社に対し、その使用が許諾されたものです。MSCI、S&P、およびGICSまたはGICSによる分類の作成または編纂に関与した第三者のいずれも、かかる基準および分類(並びにこれらの使用から得られる結果)に関し、明示黙示を問わず、一切の表明保証をなさず、これらの当事者は、かかる基準および分類に関し、その新規性、正確性、完全性、商品性および特定目的への適合性についての一切の保証を、ここに明示的に排除します。上記のいずれをも制限することなく、MSCI、S&P、それらの関係会社、およびGICSまたはGICSによる分類の作成または編纂に関与した第三者は、いかなる場合においても、直接、間接、特別、懲罰的、派生的損害その他一切の損害(逸失利益を含みます。)につき、かかる損害の可能性を通知されていた場合であっても、一切の責任を負うものではありません。

分配金に関する留意事項

- 収益分配は、計算期間中に発生した運用収益(経費控除後の配当等収益および売買益(評価益を含みます。))を超えて行われる場合があります。したがって、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 受益者の個別元本の状況によっては、分配金の全額または一部が、実質的には元本の一部戻しに相当する場合があります。個別元本とは、追加型投資信託を保有する受益者毎の取得元本のことです、受益者毎に異なります。
- 分配金は純資産総額から支払われます。このため、分配金支払い後の純資産総額は減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。計算期間中の運用収益以上に分配金の支払いを行う場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。



MEMO

MEMO

当ファンドは、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)に投資しますので、ファンドの基準価額は変動します。これらの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
また、投資信託は預貯金と異なります。

お申込みにあたっては、必ず投資信託説明書(交付目論見書)および目論見書補完書面等をご覧ください。

■投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは



商 号 等：株式会社みずほ銀行
登録金融機関 関東財務局長(登金)第6号
加 入 協 会：日本証券業協会
一般社団法人金融先物取引業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

■設定・運用は



商 号 等：アセットマネジメントOne株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第324号
加 入 協 会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会